



題字：まっぴー（院内学級での作品から）

■編集・発行／神奈川骨髓移植を考える会（略称：BMT 神奈川）

〒254-0042 神奈川県平塚市明石町 24-25-309 黒部設計事務所内 発行責任者／村上忠雄

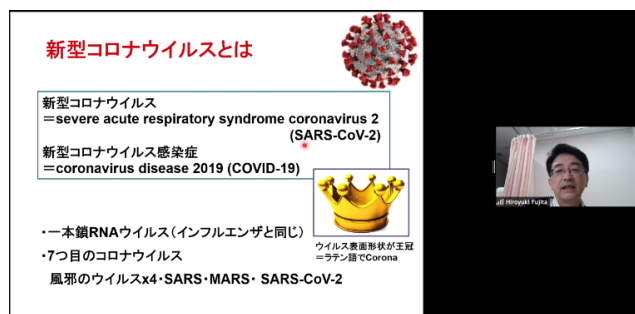
TEL:090-4713-7300 FAX :0463-25-1383 <https://www.bmtkanagawa.com/> E-mail:bmtnoniji@yahoo.co.jp

■日本骨髓バンク <http://www.jmdp.or.jp> ■全国骨髓バンク推進連絡協議会 <http://www.marrow.or.jp>

第 13 回患者サロン開催

～藤田先生をお招きして～

10 月 4 日、第 13 回患者サロンが新型コロナウイルス感染防止の観点から ZOOM にて開催され、一般の方と BMT 会員の合計 23 名が参加しました。当日は、「血液疾患患者の感染症対策」～新型コロナウイルス対策を中心に～と題して、済生会横浜市南部病院の藤田浩之先生にご講演いただきました。血液疾患の方の新型コロナウイルスの感染状況や重症化する可能性があること、新型コロナウイルス感染症の最新情報、今後のインフルエンザの状況など分かりやすく説明いただくとともに、事前の参加者からの質問に全て回答いただき、参加者一同、藤田先生の丁寧な説明に感動しました。（博田）



参加者アンケートより感想の一部をご紹介します

タイムリーなテーマだったのですごく興味を持ってました /最新のデータが盛り込まれた豊富な資料でとても質の高い内容でした /難しい内容にもかかわらず丁寧なお話のおかげで理解できました /藤田先生のお人柄と熱意が伝わってきました /質問にも明快な答えをいただきました /うがい薬での頻回のうごいは、のどの粘膜を荒らし、水うがいより効果が薄いということには驚きましたが納得できました /うがい薬などの効用には誤解があったことがわかってよかったです /またいつか是非お願いしたいと思う先生でした /血液疾患患者のみならず一般にもすぐに役立つ内容でした。/ZOOMでのオンライン開催だったので、感染の心配もなく集中して聞けました /遠方の方々も参加していただけたのでとても良い方法だと思いました。

延期していた患者サロンが開催出来た事は大変嬉しく思います。BMT 神奈川初のオンライン開催となった今回、最新のコロナ状況、患者や家族が気を付ける事などをわかりやすい資料を交えてお話しいただき、大変勉強になりました。顔にもウイルスが付着していること、触れると手にウイルスが付き、その手で口や鼻などを触ると感染する恐れがあるため帰宅時は顔も洗うことなど、日常のちょっとした行動が大切だと理解できました。後半のグループ交流会ではお互いの近況報告などを行い、活発な情報交換の場となりました。

血液疾患患者の感染症に詳しく、病院内の感染症対策の中心にもなられている藤田先生の講演をお聞きできた事は大変有意義でした。コロナ禍、同時にインフルエンザが流行する時期となりますので、今回学んだことを今後に生かしましょう。（齋藤）



ニッパツ三ツ沢球技場ドナー登録会



皆さん、サッカーのJリーグで行っている「シャレン！」ってご存じですか？

Jリーグの社会連携活動で、「Jリーグを使おう！」という企画が有り、私の応援する横浜F C試合当日にニッパツ三ツ沢球技場でドナー登録会を開催してほしいという提案をしたのがきっかけで、11月3日ドナー登録会を実現することができました。

横浜F Cの担当の方のご協力の元、話を進めていたのですが、コロナ禍により度々延期になり、今年度開催は無理かもしれないとあきらめかけていました。その後、横浜F Cでは神奈川県赤十字血液センターと連携し「横浜F C × 赤十字 献血応援キャンペーン」を実施し献血にご協力いただいた方には、コラボグッズ「けんけつちゃん&フリ丸限定オリジナルエコバッグ」の進呈が始まり、ようやく



© YOKOHAMA FC

念願のニッパツ三ツ沢球技場で献血併行型ドナー登録会開催にこぎつけたという次第です。

当日は感染予防のため、配布物の手渡し禁止や大きな声での呼びかけもできませんでしたが、限られた時間の中で41名の方に献血と6名の方にドナー登録をしていただきました。

横浜F C担当の方には、試合会場での実施に向けて関係各所との調整など、開催までに本当にお手数をおかけしました。改めてお礼を申し上げます。

三ツ沢球技場はもちろんですが、このような登録会が他のスポーツ会場にも広がることを期待します。

(小沢)

シャレン！（社会連携活動）とは？

社会課題や共通のテーマ（教育、ダイバーシティ、まちづくり、健康、世代間交流など）に、地域の人・企業や団体（営利・非営利問わず）・自治体・学校などとJリーグ・Jクラブが連携して、取り組む活動です。



第15回技文手づくり市に参加

9月26日、横浜市技能文化会館にて手作り品を持ち



寄り、久しぶりのバザーに参加しました。レベルの高い商品が並ぶなか、当会では初めて利益が出ました。

ホッチポッチミュージックフェスティバルに参加

11月8日、横浜公園にて。団体紹介コーナーで登壇し、



「骨髄バンク」のPR。ブースでは手作り品を販売しました。天気に恵まれ、ホッチポッチ（HotchPotch）の意味の通り“ごちゃまぜ”

の楽しいイベントとなりました。



滝頭小学校でドナー登録会

12月5日（土）、磯子区滝頭小学校で初のドナー登録会を開催しました。創立92周年を迎えた同校は、PTA主催で献血活動を始めて今年で12年目になるそうです。土曜参観の合間に保護者の皆様、子どもたちの下校後は教職員の皆様にご協力いただき、献血48名、骨髄バンクドナー登録説明15名中、10名のかたに登録いただきました。理解ある学校、設営から終了後の片づけまで終始和やかで楽しそうな雰囲気活動されているPTA役員さんに助けられ、私たちも温かい気持ちで活動することができました。鵜飼校長先生のお話では、コロナ感染拡大の影響で中止という声もあった中、「今だから足りていない」という情報を聞き決断されたとのこと。このような多くの方のお気持ちが、ひとりでも多くの患者さんに届きますようにと願わずにいられません。皆様お忙しい中本当にありがとうございました。（原子）



PTA 役員の皆様

**** 当会ホームページに活動紹介の動画をアップしました ****

当会の活動の内容などをわかりやすく知って頂けるように動画の作成をはじめました。ホームページのトップ画面から入れますのでご覧ください。右のQRコードからも入れます。

動画作成のきっかけは基金 21（神奈川県の実業）のボランティアフェスティバル用に開催された「画像講習会」でした。受講前は“スマートフォンで手軽に動画が作成できる”という言葉に半信半疑でしたが、思いがけない楽しい作業でした。そこで、当会でも講師をお招きして ZOOM による講習会を開催しました。受講した会員はそれぞれにテーマを絞り個性あふれる楽しい作品に仕上げました。今後も様々なテーマの動画を作成し、広報の幅を広げていく予定です。



なお、パソコンの再生画面からはダウンロード（改変は不可）もできますのでご活用ください。（中島）

★BMT 神奈川 PR 映像



当会のいろいろな活動を紹介する PR 動画です。同じ目標を持つ仲間に加わって、一緒に活動しませんか？アットホームな雰囲気が伝わるとおもいます。

★コットンキャップについて



「闘病中も快適に過ごしてほしい」ある女性の想いから始まった肌によさしいコットンキャップ。手づくり好きが集まって作製し、バザーなどで販売をしています。

★新しいドナー登録会



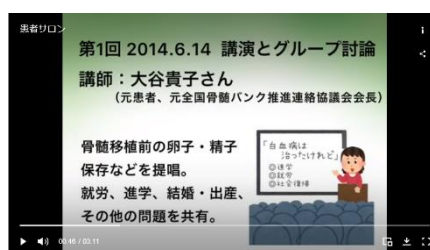
コロナ禍でもドナーを待っている患者さんのために、ちょっとした工夫をして、ドナー登録の呼びかけを始めています。

★さがみはら市民活動フェスタ



骨髄バンクについて知っていただくために、イベント会場での広報活動の様子を紹介します。

★患者サロン



過去 13 回の患者サロンについてまとめました。このサロンは、患者さんに寄り添った講演とお話をする場です。

★ハンドベルコンサート



昨年、横浜そごう前で開催されたクリスマスコンサート。一番のプレゼントは家族の笑顔かもしれません。この日はゴスペルの皆さんも歌ってくださっています。

★ドナー登録のよびかけ

誰にも本来他者への優しさがあると思いますが、生存の競争の中で“無関心”という鎧で心を守ってしまいがち。そこに働く内容になればと考えました。



★大磯ウインドアンサンブルのみなさまへ

長年のチャリティーコンサート開催とご寄付へ感謝を込めた動画です。

2019 年 12 月 8 日 22 回目の演奏会の会場でご挨拶をさせて頂いた様子を中心にまとめました。



～ は ら 子 の 部 屋 ～ vol.2

BMT 神奈川は人材の宝庫！会の財産でもあり、いつも誰かのために頑張ってくれている会員ひとりひとりにスポットを当て、その貴重な闘病経験を含めた生きる姿や想いを、広く内外にご紹介する企画としてスタートした【2度の骨髄移植を経験した原子が会員に聞く】シリーズ。

第2弾は、フルタイムの仕事を持ち明るく家族を支えるIさんご家族3人にお話を伺いました。当会会員のまっぴーママ、長女のまっぴーさんが8歳(小学校2年生)で「T細胞型急性リンパ性白血病」を発症し、9歳6か月で臍帯血移植を受けたそうです。8年が経ち、当時3歳だった弟さんは現在12歳の小学校6年生、17歳の高校2年生になったまっぴーさんは、サラサラヘアが印象的なきりりとした元気な女の子です。



晴れた空に虹

～笑顔のちから～ まっぴーママ編

◆「元気になったいまを教えてください」

闘病中は「いま」のことだけを考えるのが精いっぱい。「今日、生きていてくれたらいい」と心からそう願っていました。「明日のこと」など考えられる状況ではなく、余裕なんて全くなかったです。あれから8年が経ち元気になった今は、「もう少し女の子らしく～」とか「素敵な彼を連れて来てくれないかな～」とか、「部屋片づけなさい」とか。親としてどん欲になっていく、それすら贅沢で幸せなことだと思っています。皆様には娘の辛く苦しい入院生活のエピソードではなく、「今日は何をしようか」と、毎日小さな楽しみをひとつひとつつけて繋ぎ合わせたような、かけがえのない時間を過ごした娘が、「その先に見つけた光」をお伝えできればと思っています。

◆「年齢的にも難しい告知はどのように」

病気発見のきっかけは、まっぴーのことを赤ちゃんの頃から知るママ友からのひとことでした。「首のあたりが腫れてない？」と言われ慌てて受診したことから始まりました。まさかその後2年もの長い期間、学校に行けない生活を送ることになるなんて考えもせず、まったく気づかなかった自分を責めました。病名を本人に伝えても理解できず長く入院して治療が必要なことを話した時、「えー！学校に置いてあるお道具箱とかどうするの～？」と。そんなことを気にしている娘が不憫でした。しばらく何も聞いてこない娘に病気の事をきちんと話す機会を持てずにいましたが、小学校を卒業するタイミングで、改めて病名をしっかりと伝えて理解してもらうことが出来てとてもホッとしたのを覚えています。

◆「“笑顔のちから”の意味を教えてください」

娘が「何か分からない大きな大変な病気の可能性がある」と言われた日から、私の生活は一変しました。周囲の大人は誰も私に笑いかけなくなりました。私も子どもたちの前以外ではで笑わなくなり、笑ってはいけない、笑えない大変な事態が起きているということを肌で感じる日々。この先、笑えないような辛く苦しい未来が待っているのかと考えると、ものすごい恐怖でした。



院内学級の先生たち

転院先の大きな病院で正式な病名の告知を受け、院内学級を紹介されました。出向いた面談室で私を待っていたのは、満面の笑みと明るい声のトーンで、「ようこそ！院内学級へ！」と迎えてくれた先生でした。その瞬間「私も笑っていいんだ、楽しい未来が少しは待っているかもしれない」と、少しずつプラスに気持ちを切り替えていくことができました。院内学級ではどの子どもみんな本当に優しく、自分たちでは気づかないうちに自然とお互いがお互いのことを癒し合い元気づけている存在なんだと感じました。先生からの連絡帳には、その日の出来事が愛情たっぷりに事細かに書かれています。10冊の連絡帳は私の宝物です。



院内学級連絡帳

娘のケアだけでなく私の心にも常に寄り添ってくれて、辛い時は一緒にいてくれたりと、この院内学級の先

生たちは私の中で長い治療の大きな支えになりました。
心から感謝しています。



無菌室の窓から

◆「医療者のかたたちへ」

最初に主治医からは、「この子に痛い思いや辛い思いはさせません」ときっぱり！

娘の発症前に偶然テレビで観た「骨髄採取(マルク)」で、小さな子どもが泣き叫んでいる映像が心に焼き付いていて、うちの子もあんなに辛い思いをするのかと、それが何より気がかりだった私は、その言葉にどれだけ救われたか。そして実際、マルクはいつも何事もなかったかのように終わるのでした。

出産で入院した以外、風邪の一つも引いたことのない私は医療のことなど全くの無知。娘の重大な病気に直面して、主治医の K 先生をはじめとした医療者の方たちに対し、時には涙したり感情をぶついたりしました。娘もそうだったようですが、K 先生は話のしやすい雰囲気。が全身から伝わってくる敷居の低い先生で、新人ドクターなのに「できる限りお母さんの気持ちに応えられるようにしていきますから僕に言ってください、受け止めますから」と、いつも冷静に丁寧に病気や治療のことを説明してくださったことで、私は心のバランスを保っていたと思います。

◆「同じ立場で病気と闘う多くのご家族へ」

どうかひとりで頑張りすぎず、「誰か手を貸してください」「助けてください」と声を発して、上手に周囲の方に甘えてほしいと思います。私自身は、下の子を親に見てもらうことが出来ましたが、それでも時には3歳の子をおんぶして家と病院を往復。当時は病気のこと以外、「心ここに在らず」だったので車の運転も怖くて毎日電車に通っていました。寝てしまった子を背負い大きな荷物を持ち、それでも座れない満員電車。ひとりで抱え込み余裕のない日々を必死に過ごす日もありました。誰かに甘えられることはとても幸せなことです。頑張りすぎたり突っ張ったりせず、もっと周囲の人に甘えてくださいと、それを強く言いたいです。

～なんも覚えてない～ まっぴー弟編

◆「当時のことで覚えてることはありますか」

ぼくは3才だったからお姉ちゃんが入院してた時のことはまったくおぼえてません。

お母さんが病院に行ってるあいだ、おばあちゃんが家に来てくれて、よく外で一緒に遊んでくれました。なんだかよくわかんないけど気づいたらそういう生活だったって感じ。病気のことは、今聞いても大変な病気だったんだな～くらいで、難しくてよくわからないかな。

原：さみしいとか思わなかった？

弟：嫌なことは全然なかったよ

原：それならよかった、お母さんそれをすごく気にしてたから。家のどこかに定点カメラをセットして、一日お母さんを撮ると面白そうだね。

弟：それめっちゃ面白いと思う！オーバーアクションで声も大きいし、どこにいるかすぐわかる。

原：好きなことは？

弟：ベ이스ターズの大ファン！試合の応援にも行くよ♪

原：壁にかかっているユニフォームはその時に着ていくやつ？

弟：そう♪

原：今日試合負けちゃったね

弟：ずーん

原：そういう日もあるさ

弟：あと算数も好き

原：数字苦手だ一、私は59才、弟君の何倍？

弟：う～んと、5倍くらいかな

原：孫・・・(・・;)

数学の計算式を解いたら答えが時刻になる面白時計の写真を見せたら、まだ習ってないけどこれおもしろい！と眼が輝いた。話は尽きない。兄弟でよく似た涼やかな目元はママと同じ。「本当に優しい子に育てくれた」とママが言っていたよ。きちんと正座を崩さずにお話ししてくれました。ありがとうね。5倍も年上のオネエサン(?)たちにとっても伝わりました。

～楽しかった入院生活～ まっぴー編

◆「自分の病気のことをどう思う」

小さい頃は自分の体の中でそんな大変なことが起きているとか、病気のことはわからなくて、気づいたら入院が普通の生活になっていました。早く元の学校に戻りたいと思ってたけど、治さなきゃいけないっていうから仕方ないな～と。少し大きくなって病気のことを教えてもらってから、学校や話さなければいけない大人たちに話すと、「かわいそうに・・・」とか「つらそうね」という言葉が返ってくる。同情されているようですごくイヤでした。友達にも気をつかわれたくないから、本当の

ことが言えなくなりました。私はかわいそうな子なんかじゃない。「病気になったことは不運だったけど、不幸じゃない!」「入院生活は本当に楽しいことだらけだったよ!」と、それを一番に伝えたいです。

◆「その、楽しかったことを教えてください」

院内学級がとても楽しかったです。病棟の中に教室があって勉強だけでなく授業中にアニメのビデオを観たりゲームをしたり、音楽や体育の授業まであったんですよ。風船バレーではどんなに力いっぱい風船をたたいても、ぼよよ〜んとか飛ばないそれがまたすごく楽しかった。それと、夏祭りのような季節の行事もたくさんあって、自分たちのやりたいことを計画するところから自由にやらせてもらいました。

普通では知り合う機会のない中学生のお兄さんに遊んでもらったり、親が帰った後にぐずる小さい子には、絵本を読む?と話しかけたり、いろんな部屋を行ったり来たりして学年の違う仲間とたくさんの時間を過ごしました。朝起きてから寝るまで一緒に、次の朝起きたら、またみんながいてくれる。入院というより長期で泊まっている学校の中に時々治療があるような、一緒に生活している仲間、大きな家族という感じ。これがあったから入院が辛いと思う暇もなく、楽しいことだけを探して過ごせたので、院内学級の先生や仲間には本当に感謝しています。退院後すぐには地元の小学校へ戻らず、院内学校の本校である特別支援学校に1年間通いました。

こんな小児科独特の楽しい日常があることを、もっと多くの人に知ってほしいです。



楽しかった卓球

音楽ではお琴もやったよ♪



「生きる」だと思ったらナマだって



お寿司が好きすぎて

メリークリスマス!



◆「お世話になった方へ」

私の主治医は新任の若い男の先生でした。記念すべき患者第1号が私です。正直、最初は頼りなくて大丈夫かな〜?と思ってたけど、気づくと土曜も日曜も祝日も、いつもいつもそばに寄り添ってくれて、いない日はない。「先生はいつうちに帰ってるんだろう」と、子どもながらに思っていました。

いつも頑張ってくれているお母さんに心配をかけたくなかったから、わがまま言ったり本当の気持ちはあんまり話せなかったけど、このK先生にはいつも自然と自分の気持ちをさらけ出すことができました。「薬が苦いー!とか、あれもこれもイヤだ〜!」と反抗期の娘のように叫んでも、K先生はいつも穏やかな顔をしてそばにいてくれました。入院のことを思い出す時、K先生のことがいつも真っ先に浮かびます。

私の退院直後にK先生が結婚したことを聞き、「私が退院して安心してようやく結婚出来るのね!これからは羽を伸ばして生きていけるね〜」と、嬉しかったり申し訳なく思ったり。残念ながら先生は今年、別の病院に行ってしまったけど、いつか大人になった私の姿を見てもらいたいと思ってます。

◆「天使になった戦友たちへ」

昨日まで一緒に遊んでいた友達がある日突然いなくなる。最初はその意味すらわかっていませんでした。元気になって退院していく子は、バイバイと見送れたけど、そうじゃない子はどうしちゃったんだろうと。人の死なんて身近なものじゃないから、いなくなった仲間のその後をかなり後になって知り、とても衝撃を受けました。自分と同じ病気で、元気になってただ当たり前の普通の生活を送りたかったただけなのに、中学校にも行けなかった。そんな戦友たちのためにも元気になった今の姿をたくさんの人に見てもらいたいです。

◆「乗り越えた先に見つけたもの」

将来は、小児がんの子どもたちやその家族を支える「子ども療養支援士」になりたいです。

入院中に、先に元気になって退院したお兄さんの Y 君がダンスを教えるに院内学級に来てくれたことがあって、「頑張れば Y 君のように普通の生活が送れるようになるんだ」と、すごく勇気づけられました。今はまず高校の勉強を頑張っ、卒業後は看護師の資格を取り、できれば小児科で何年か経験を積む。その先に、私の本当にやりたいこと、目指すものを見つけました。

「子ども療養支援士」は、病気で入院する子どもたちだけでなく、その兄弟や家族のメンタルケアをするお仕事です。弟は小さかったけど思うことは何かあったはずで、そのことを話せる人がいなかったんじゃないかと。「家族だからこそ言えないことがある」そういう時、家族以外の誰かをひとりとはさむことで、何か言えたら気持ちが落ち着くという、すっきりすることがあると思います。何も経験のない人より、病気をしたからこそわかる患者本人や家族の気持ち、そんな方たちに納得してもらえることも多いと思ってます。この経験を生かして「頑張ったら私みたいに元気になれるんだよ!」と、私も Y 君のような存在になれるように頑張ります。



題字になっている院内学級での虹の習字

ご家族に今の想いを手紙に書いていただきました。

♥お母さんと弟への手紙

入院していた約 1 年間、お母さんはほぼ毎日面会に来てくれました。誰よりも早く病室に入り、終わりまで一緒にいてくれたので私はとても安心でした。感謝しきれないくらい感謝でいっぱいです。ありがとう! 弟は私が入院した時まだ 3 歳でした。弟とお母さんの時間はとても少なかったと思います。私の中では一番のがんばり屋だと思ってます。これからも仲良くしていこう!!

♥お母さんとおねえちゃんへの手紙

ぼくは 3 才でした。当時のことはほとんどおぼえていません。ぼくにとっての病気のイメージは、こわい、いたい、さみしい、です。あと、いつもぼくだけ仲間はずれで、おねえちゃんのことは聞いてはいけないうとずっと思っていました。今は元気になったおねえちゃんがむかついたりめんどくさかったりするけれど、兄弟がいてよかったと思います。

♥ふたりへ、母からの手紙

毎年、「もうひとつの誕生日(移植した日)」と題してお祝いしてきたね。1 年 1 年「この日」を迎えられる事が本当に嬉しくて有難くて。臍帯血を提供してくれたご家族をはじめ医療関係者の皆さん、何より辛い拒絶反応と長い間苦しみを闘ってくれたまっぴー。いつも応援してくれた弟、感謝してもしきれません。

「晴」れたら「虹」が見えるよ!

インタビュー後記

まっぴーさんに初めて会ったのは、多くの患者さんでごった返すコロナ禍の病院の広いロビー。

遠くからでもなぜかそこだけ明るく見えて、すぐにそれとわかった。明るさの中に、乗り越えた人が併せ持つ静かさともいうのだろうか、凜としている。

I さんのご厚意で自宅へ伺い、ひとりずつ別の部屋でお話を伺った。何年振りかで奥から取り出したという当時の写真や院内学級の連絡帳は、どれもあまりの楽しそうな様子にびっくり。終始笑い声の絶えない楽しい時間となり、それは I さんご家族の姿そのものだと感じた。病気を乗り越えたその先に、まっぴーさんは今目標を見つけている。無責任な言い方になるかもしれないけれど、まっぴーさんのこの経験のすべてが、「子ども療養支援士という天職に出会うために神様が敷いてくれたレール」なのではないかとさえ思えた。

雨の真ただ中にいる時は虹を想像などしていない。そのぶんだけ、雨上がりの虹は美しく見えるのだと思っていた。けれど、この世には雨が降ったことなど感じさせない虹もあるのだと、このご家族に出会って思った。コロナ禍でも明るく風通しのいい I さんファミリー、若者たちの未来に幸あれ! (原子)

ドナー登録会の現状(11月30日現在)

6月よりドナー登録会を再開しました。昨年、登録実績最多の大学登録会でしたが、いまだリモート授業主体の学校が多く、一部医療系大学が徐々に献血・ドナー登録を再開し始めたばかりは皆無に近い状態です。又、昨年より強化を始めた企業関係も在宅勤務増やコロナ感染対策で、献血・ドナー登録が皆無となっているので、現在は、街頭、大型商業施設、県・市・町等の行政機関でのドナー登録会が主体となっています。そんな厳しい状況の中、JAさがみ茅ヶ崎支店前では6月より月2回ペースで開催させていただいており、心から感謝いたします。来てくださった皆様はきちんとマスクを着用していて、献血受付前に手指の消毒をしてもらいます。ドナー登録していただいた方の多くが、コロナ前と変わらない態度や対応をしてくれた事を嬉しく感じました。岩崎(眞)

◆登録会実施結果

	開催場所(開催日)	登録/説明
8月	本厚木駅北口(8/1)	9/13
	JAさがみ茅ヶ崎支店(8/3)	11/12
	相模原市役所前(8/4)	7/10
	神奈川県庁舎(8/13,14)	12/16
	平塚駅北口(8/15)	10/15
	小田原ダイナシティイースト(8/16)	16/19
	横須賀中央駅前(8/29)	11/14
9月	ミスターマックス湘南藤沢(8/31)	7/13
	座間市役所(9/4)	9/10
	平塚市教育会館(9/15)	12/15
	綾瀬市役所(9/16)	7/9
	本厚木駅北口(9/19)	12/13
	JAさがみ茅ヶ崎支店(9/21)	14/18
10月	横須賀中央駅前(9/22)	8/12
	JAさがみ茅ヶ崎支店(10/5)	11/14
	防衛大学校(10/6,7,8)	56/64
	JAさがみ茅ヶ崎支店(10/11)	11/13
	イトーヨーカ堂大船店前(10/17)	5/7
	小田原ダイナシティイースト(10/18)	8/11
	伊勢原市役所(10/19)	11/11
	JAさがみ茅ヶ崎支店(10/20)	6/9
	ミスターマックス湘南藤沢(10/24)	8/9
	イトーヨーカ堂立場店前(10/25)	14/17
11月	東海大学医学部付属病院(10/27)	6/6
	日本発条株式会社伊勢原工場(10/28)	13/16
	小田原ダイナシティイースト(11/1)	9/10
	JAさがみ茅ヶ崎支店(11/2)	8/9
	ニッパツ三沢球戯場(11/3)	6/6
	川崎市役所第三庁舎(11/5)	6/7
	相模原市役所前(11/6)	10/11
	JAさがみ茅ヶ崎支店(11/8)	12/14
	戸塚区役所(11/10)	6/9
	京急久里浜駅前ウィング(11/15)	10/13
	横須賀商工会議所(11/17)	7/13
	横須賀中央リドレ前(11/21)	8/9
12月	平塚駅北口(11/22)	11/13
	JAさがみ茅ヶ崎支店(11/23)	12/13
	横浜薬科大学(11/27)	10/19
	ミスターマックス湘南藤沢(11/28,30)	27/33
	相模原市役所(12/1)	8/9
	滝頭小学校(12/5)	10/15

◆献血ルーム登録数集計(R2年8月～11月12回)

※登録会開催日が不定期になりました

	かわさき ルフロン (4回)	横浜駅東口 クロスポート (4回)	横浜 Leaf (4回)
合計	32/40	36/46	33/40
累計(27/5～)	585/727	663/871	296/361

(登録数/説明数)

◆日本骨髄バンクの現況(R2年10月末現在)

骨髄バンクデータ集より	全国	神奈川県
ドナー登録者数	530,157	25,106
患者登録者数	1,841*	76
移植実施数	24,857*	1,633

※海外を含む

◆ご寄付＆募金のご報告◆

みなさまありがとうございました

天 法楽(宮良 貴俊)様 30,000円

ホッチポッチミュージックフスティバル募金箱

5,192円

イエローレシートキャンペーン(還付金) 23,900円

私たちの活動は善意のご寄付で支えられています。
ご協力をお願いいたします。

++寄付の振込先++

◎ゆうちょ銀行から

郵便振替口座：00230-8-55751

加入者：神奈川骨髄移植を考える会

◎銀行からゆうちょ銀行へ振り込む場合

支店：〇二九(ゼロニキュウ)支店

当座 0055751

口座名：神奈川骨髄移植を考える会

本紙に掲載されている個人名や金額につきましては
ご本人の承諾をいただいております。

ビル建物総合管理・施設警備

有限会社 白朝サービス社

神奈川県横須賀市汐入町 4-28

TEL : 046-825-7180 FAX : 046-825-7163

＝はみだし編集後記＝

本紙は全ページカラーになりました。その記念すべき第1号です。／P4には虹が掛かりました。インタビューしたまっぴーさん一家にとって、入院生活中の“虹”にはとても大切な意味がありました。／皆さまは、気が付かれたでしょうか？タイトルの題字“虹”は今回の特別バージョンです。ご覧ください。(な)